

覺勝寺だより

慈光照護のもと、門徒各位におかれましては、健康のこととお喜び申し上げます。

平素は、覺勝寺護持運営にあたり、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、十月十八日(日)に勤修いたしました報恩講法要には、何かとお忙しい中、日中には三十六名、速夜には四十五名の門徒の皆様にご参拝いただき、ありがとうございます。

法話は、木戸正賢法圓寺住職にお願いし、『今どこに立っているのか』と題して、真宗門徒として大切なことを、わかりやすくお話いただきました。合掌



第九回総代会報告事項

一、定例法座について

十一月と十二月の定例法座は、当初の計画通り十四時から開催することとします。三密(密閉・密集・密接)を避けるとともに、マスク着用と手指消毒にご協力ください。

○十一月八日(日) 十四時から
○十二月六日(日) 十四時から



二、護持基金の管理について

前回の総代会に引き続き、覺勝寺所有・管理財産管理要綱(案)と、覺勝寺護持基金特別会計処理規定(案)の内容について、特に管理財産管理委員会の管理範囲と構成メンバーについて検討しました。

定例法座の開催

○定例法座の開催

十一月八日(日) 十四時から

内容：浄土真宗のみ教え(その二)

○定例法座の開催

十二月六日(日) 十四時から

内容：浄土真宗のみ教え(その三)

報恩講法要勤修

十月十八日(日)に、日中と速夜の二回に分けて、報恩講法要を勤修いたしました。

田中住職の正信偈の勤行の後、ご法話は、法圓寺(近江八幡市)住職の木戸正賢師にお願いしました。今回のご法話は、二〇〇七年の「承元の法難」と言われる出来事により、法然聖人と親鸞聖人が流罪に処されたことをきっかけとして、親鸞聖人は自らのことを「非僧非俗(僧に非ず俗に非ず)」といい、「愚禿(ぐとく)積親鸞」と名告られるようになり、真に仏道を求める者であるという宣言でもあったというお話など、優しい語り口でありながら、真宗の真髓に触れるお話を拝聴しました。また、午後七時からの勉強法座には、十七名の方にご参加いただきました。田中住職の講話内容は裏面をご覧ください。



庫裏の改修

佐々木篤子坊守が高齢であることから、庫裏のバリアフリー化について、予てより佐々木家と後見人武田住職を中心に話し合いが続けられていましたが、今回庫裏を改修することになりました。すでに一部業者による清掃作業等が進められておりますが、業者の資材等の準備が整い次第、本格的に改修作業に入る予定です。覺勝寺への出入りについてご注意ください。

班別清掃終了

今年度より実施しました班別清掃は、十月四日(日)の九班・十班(十一名参加)のご奉仕を持って、終了しました。ご協力ありがとうございました。

覺勝寺行事予定

◎年末寺掃除

十二月十三日(日) 九時から

※覺友会・仏壮・仏婦の皆様のご協力をお願いします。男性は鎌を、女性は雑巾をご持参ください。

滋賀教区・犬上組 行事予定

○第七回門徒総代会

十一月十九日(木) 誓念寺
十三時三十分から



浄土真宗 本願寺派
圓鏡山 覺勝寺
彦根市開出今町 258

田中康勝住職代務 連絡先
本光寺 彦根市八坂町 1318
TEL&FAX : 28-0572

《 総代連絡先 》
北川善雄 25-0660
尾本 博 28-1436 西崎文雄 28-8104

① 親鸞聖人と法然聖人との出遇い^{であ}

人生は出遇いです。いつ、どこで、どんなことで、誰に出遇うか。そのことがお互いの人生を決めると言われていますが、京都東山吉水の草庵に毎日多くの貴族・庶民が郡参していた「智慧第一の法然房」と言われた法然聖人を訪ねられ、百日の間、雨の降る日も、日の照る日も、どんな支障があろうとも欠かさず通われ、親鸞聖人 29 歳（法然聖人 69 歳）の時、^{しゃくくう} 綽空（道綽の「綽」と源空（法然聖人）の「空」という法名を授けられました。後に、親鸞聖人の主著「教行信証の総序」でこの出遇いを「^{じゅつかい} 遇い難くして遇うことが出来ました。聞き難くして、真宗の教えを聞くことが出来ました。」と述懐されている。

※法然聖人 43 歳の時中国の善導大師の、

「ただひとすじに阿弥陀仏の名号を^{とな}称え、歩いている時も止まっている時も、^{すわ}坐っている時も^ふ臥せている時も、いついかなる時も、また時の長短を問わず、一瞬一瞬、相續して捨てないのを^{しょうじょうごう}正定業という。阿弥陀仏の本願に従うからである。」（『観経疏』）という文に出遇い、その後、念仏の道を歩まれることになりました。

② 法然聖人の教え

〈専修念仏の教え〉

- ・法然聖人の教え：「^{せんじゆ}専修念仏（ただ念仏して、阿弥陀仏に救われていく教え）」
（阿弥陀仏が本願の中で、すべての人が救われる道として、念仏を選び取ってくださったということから、「^{せんじやくほんがんねんぶつしゅう}選択本願念仏集」の教え）

○『^{せんじやくほんがんねんぶつしゅう}選択本願念仏集』（法然聖人唯一の主著、『^{もん}選択集』「三選の文」より）

・仏教 **┣** 聖道門 … さしおく

┣ 浄土門 **┣** ^{ぞうぎょう}雑行 … なげうつ

┣ ^{しょうぎょう}正行 **┣** ^{じょごう}助業（^{どくじゆ}読誦・^{かんざつ}観察・^{らいりはい}礼拝・^{さんたんくよう}讃嘆供養）… ^{かたわら}傍ら

┣ ^{しょうじょうごう}正定業（^{もつば}称名=念仏）… 専ら

（※五正行：読誦・観察・礼拝・称名・讃嘆供養）

〈勝れた易しい行〉 なぜ念仏なのか。

- ・勝れた行（仏の救いのはたらきが収まっている）
- ・易しい行（誰でも行うことのできる）

※「念仏は、勝れた易しい行だから、楽でいい」というのではなく、このような選びの根底には、阿弥陀仏のすべての人を救わずにはおかないという、平等の大悲心があるという^{こと}を、忘れてはならない。

〈「私から仏」から「仏から私」〉

「私から仏」という方向（自力）：私が一生懸命修行をして仏のさとりに近づく

↓

「仏から私」という方向（他力）：仏さまの救いのはたらきを受け容れる